



8/4実施 第2回 小川晶保育ゼミ

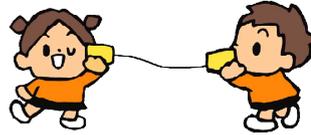
R5.8.30 保育センター 発行

第2回では、「あそびの中での子どもの尊重」「組織での課題の向き合い方」について学びました。

「あそび」とは？

乳幼児の教育は「あそび」を通して行われます。様々な自然にふれることや、人とのやりとりを楽しむ等主体的に経験を積み、あそびが豊かに展開されていくことで、遊ぶ力が伸びていき、学ぶ力が育っていきます。保育者は子どもが育つ時間を保障していきましょう。

子どもが自分で選んであそびを決める



何を選び、どこでどう遊ぶかを決めるのは子どもの自由です。人的環境として保育者はどう関わるか、また、物的環境をどう整えるか。子どもが自分で選んであそびを決められるよう、保育者は環境を設定していきましょう。

保育者はどうする？

- ・2領域「生命の保持」「情緒の安定」を十分に満たす
- ・答えを教えたりせず、考え方や筋道を伝える
- ・子どもが、自らあそびに参加できるように、1人ひとりに合った保護をする

等

どんな環境にする？

- ・発達に合った玩具準備やあそびが展開できるようにする
- ・試行錯誤や探求ができるようにする
- ・園庭整備、安全チェック、衛生管理をする
- ・あそびが展開される中で、それぞれのあそびの保障やこどもの保護のためのゾーニングをする

等

ウンチが出たら遊べないよね

不安なままじゃ遊べないよね



裸足で遊びたい子と靴を履いて遊びたい子が同じ場所で過ごすのは危ないかな…？

それぞれのあそびを保障できるように、ゾーンを分けてみよう



グループワーク

～あそびの中での「あたりまえ」を振り返る～

あそびの中で行っている保育者の関わりが、子どもを尊重できていたかどうか？参加者同士で話しました。

- ・0,1,2才が一緒に過ごす中で、上の子達に、「お兄ちゃんなんだから…」と言ってしまっていた。
- ・もったいない、汚れると思った時に、どうしても「ダメ」と言葉が出てしまう…。
- ・大人の気付きを伝えてしまって、子どもの発想や経験する機会を奪ってしまっている…。

等

組織での課題の向き合い方

個人では課題に気付いても、組織としての課題と捉え向き合うためにはどうすればいいか悩むこともあると思います。

まずは日々の中で、アセスメントした上で計画を作成し、それをベースにした保育実践を心掛けましょう。課題については計画に落とし込みます。

そして組織の中では、個人の考えを伝えるのではなく、「計画に〇〇とあるので、それに沿ってやっていきましょう」と、計画をベースにした伝え方をするといいです。

受講者の感想

そもそもが自由であり、子ども自身で決めて、考えて、参加することが大切だと思いました。2領域を十分に満たすことも大切で、そのための保護も大切だと感じました。

【和光なかよしこども園 O先生】

保育者として危険予測をすると、どうしてもあそびを制限したくなる。どうやって子どもの選択を妨げずに安全に研究させるのか、子ども達の発達に合わせて関わっていききたい。

【丸山台プライムスター保育園 F先生】

自分で決めたあそびは飽きないということにハッとさせられました。今以上に意識を変えて、子ども達が自分で決めて選んで遊べるように環境を設定したいと思う。

【ひろさわ保育園 Y先生】